八笑人四編追加

下

へ13
3094
12

へ13
3094
12
特

帝国図書館

花暦八笑人四編追加下之巻

江戸　童戯人　瀧亭鯉丈著

○

備其日をすごすとして。質兵衛八早朝飯すまし弁当を持。毎日酔古に来るゆゑ。もたれかゝりけるど日数つもれば少し人形も出来る。あくまでこだわりなく。ようにあり。桃八置しゝ諸屋敷。ども元をうひ。毎日ようしゝ。日雇をしるし。諸色をのこをかひとく仕組しゝ

チヨボ語りの声を同座し。質屋が案内する。かの
御下館へ行る。ゑ補出人の所人迎へつゞく来る
皆そまく〳〵と休足新屋仰付る。八人の藤忍者も
いつそ〳〵役者の幸新屋へ休息する。
ゑんと左次さん。おのそう廣いお座しきどのう。まづ茶
屋を始のく〳〵。元小屋里も歩行さまうゞ。頼りよ屋
ゞ初まるまうゞ。左二そう上。迷ふれでも付く〳〵まゞよろしゝ
役イエ〳〵その義はけしそあるんしまさうまるか。出用

相すまうまうく。おのゝ名さへ知ます子まゞ。お役人様ゞ
ぶひゃーこく。出業用のあ人をとゞさまゞ。のとのおにまでゞそ知
らまるまるよ相違ハこざりません。左二ハア左さうゝ。そまでハ
あんん。安心ゞナアアバ公。ゑどこゝかうちより笑ひ笑ひ。扨まゝ業番連
ゞ長又ハ化粧屋を湯のゝのるひまゞまのゝ中のあゝひゝ。ゝのゝきの役者の系持の流
かの備屋をとりちあるゝ。あのまの新屋とゝゞゑ。まゞ後ゝまゞゝ。その外の
洞窟をゝ。のまゝりくるゝくゝゞおのまゞ役の二幕ゝまくゝまゝ。あゝゝ下地る
ゞり。洞ゞひをゝゝをつひ楽屋ゝゝきゝゝ。ひゝゞりの幕上ゝりる
まで。役のちひゝりゝゝひ。ゝゝゝゝゝゝ。ゝゝとゝゝゝ。
をゝゝゝまるゝゝゝゝゝゝ

是ハ御つまも今日ハ大きな出若殿上にも殿の御おの〳〵
こゞく〳〵。何よ頂き来ぬの。お樂屋〳〵おち〳〵がの御幕
まぐく見るゝ数ゞ不揃ひでハ。チト御まつるゝごぞるゆ。
ちょゝと薬用いて〳〵て来ませう 後へイリく〳〵そまハ来出ませ
のふりまし〳〵と有ゞ社会せ。さあう〳〵出ぶきい〳〵。出薬
用ゞさりまし。左三郎さゝと出一処ゝ出見分せ
左三 へイリく〳〵ゝまハ〳〵ゝより。向ふに見るものゞ呑込ま
さいの〳〵ようゞさりまし。出員公眼公呑公と質へ多和さん

つふ武公とちゝと御ゝさゝゝ村中ゝ〳〵そまゝ用〳〵
へイリく〳〵さまうゝゝお世話さゝゝ〳〵出薬用ゞさりまし〳〵
眼へ〳〵。ゝまよりゝゝゝんゞハゝそうるゝもおようぶ光ゞうゞでもい眼へ
コレサゝゝ廉ゝゝ事。猪ゞうゝ〳〵ゝ出ゝゝも撲ゝゝ出ゝゝも大
ゝんゞゞ。ゞゞうゝゝゝて〳〵ゝ〳〵ゝ出ゝゝ後ハアゝ出公
猪ゝうゝ。〳〵〳〵。ゝゝそまハ一ト〳〵ゝ出左義ナ 番へイ是ハ眼武六と
中まし〳〵。年中前ゞまゝりゝゝゝゝ毎年大晦日より
松の内 廿日ごろまゞハ。猪ゝを〳〵りまし〳〵と高のびゝ歩きゝゝ

[illegible]。雑のか猪[illegible]
付き〜。この陰お上へよろ〜う。出抜ぬ[illegible]
〜〜そまゝ格のおの〜ろのるでごろう（ソンうぬ）
だろう後者の者ぜヘンつ〜ゲの。イエ[illegible]〜〜八由泉の脇の後
ハ〜ぶ〜〜動めま〜〜ゲ。猪〜今後ゲ初後ぐ。いろのこと
〜〜八寵弱いのぶ。ゆうる端後をぶまう七（左三ことを）（尾サ何をぶ）
ねくるゆをぶ〜ろくのぶ。あるぶ〜ぶるもおいそげ〜いちゃく出業
肉を後ろく。見分〜〜く来ろ〜〜。ペイ左ゆうる〜〜このもの

ぶ。ぶ〜〜ぶ〜〜ぶ〜〜ぶ〜〜〜

素人戲場花見噬
姿容顧ゝ面似猿

笑へ〳〵りく〳〵是へまこととよめうが弘極まりがこの仕人をせ。そこ
うりさまのがうおとゝろうしうおれを作上こまりとうよう
たせうまうこなさまのとおりおとゝのうでゝまうて出角。
ありがとう新いろはで。平私共出ドの通り出角一向よこぶ
てうわうでぶりまするゞ是へ外ありませぬお上のまゞ
り一四名おを亟に一ツ項載仕りませうト
まつてまう笑へ〳〵是へ左流寿さ
ませう。へイとまこふこのの

ありがとゝ仕人をせ。河豆ゝ項載仕りました。あゝ〳〵まゞう
何のまこさまこふ。何角出多角に〳〵ゝ〳〵ありませう。どうゞそ
是へ是ありまこまゝ〳〵。ありがとうでさりました多
高〳〵ゝ仕のの紙是へ是まこの是名陸まゝ沢山
まゝ〳〵ゝ。何変ようぎこゞこゞこゝゝゝ。この
者へ中ゆけこゝまこ。ア屋号の料理はこゝのいろ合
まこ。ハ〳〵〳〵笑へイエ〳〵出角辞ありの結構よいでこまこ
ト。こゝもこゝのこのこゝ。ア〳〵ありがとうでゞ是ありそう

ようゴザいます　「供」ハ　左三　ハ〜〜〜　左三　ハ〜〜〜　お座敷方とものハ　ものでチョイ〜と
ひとりのお客ぐも。酒の　一杯も呑む　変がるこうう。
今日ハ　ものハりでこうヨ　（雑談のうち酒の
大酒とうり　左三　「コレ〜〜。ものハ　碎　ぜモウ　切
時代ろね
あげやう〜〜。　殺のものハ　粗のうち　「殺」　左三
ぶるもうぶ　来ぶ　義で　扱上ても　酔のうち　ものハ
ゆ。　初酒より　始めまるやう　作出さ　ゆ〜〜。

出若男　ハ〜〜　支度よ　おゆり　でこうま　ト　「殺」　左三
ゆ〜　こまりゆ〜　こまりゆ〜　こうハ　ものハ　ゴザ
ゆ〜　こまりゆ〜　こまりゆ〜　こうハ　ものハ　ゴザ
左三　「殺」　左三　ハ　ものハ　ゴザ
新でもこせ　ぶるゆ　ゴザ
新をしてあげやう　「殺」　左三　ハ　ものハ　ゴザ
ドドどうぞ　ヨヨ　ものハ
モモヤ　ま　「モシ　ものぜ　ちん　ものハ　おあり　ものハ　ものハ　「殺」　「イ。ササ。
左三　ワワ　私ハ　ものハ　ナナ。　ものぜ。　ものハ　ものハ　ものハ　ものハ　ものハ　ものハ　ものハ
タタ　ものぜ。　チチ。　ちうきでも。　ゴゴ　ものぜ。　ものハ　ものハ　ものハ　ものハ　ものハ　ものハ　ものハ
ものハ　ものハ　いどう〜〜　ものハ　ものハ　左三　「ハア　武者ぶる

ごく〜ト きっぷの人をこの〜
ちゃせっちゃらもらひ 左ニ モシ 貸ちべえ 番頭さん 是を一ト口
ちあがん ちゃせ 笑ハイ〜ト 魚屋どふぞこくのもとをこねまアバ
ごく 笑 〜〜ココ是ハ。そこ。ふぐ。ナナ。粒。プフふくく
りのこ 左ニ
ちゃ〜〜そまでく ちゃぐ〜〜 ちゃく〜〜 ちゃ〜〜
づゆ ちゃせ〜 ちゃぐ〜〜 ちゃ幕 ハ。ちゃ〜〜ト ちゃ〜〜 ちゃ〜〜
おのまと ちゃ義ちゃ〜〜 ちゃ〜〜 ちゃ〜〜 ちゃ〜〜 ちゃ〜〜
ねんじ ちゃ〜〜 ちゃ〜〜 ちゃ〜〜 ちゃ〜〜 ちゃ〜〜
ちっと 鶴肉よ〜〜ベエ屋〜〜 ちゃ〜〜 ちゃ〜〜 ちゃ〜〜
ちゃせ 笑ハイ〜〜 ちゃ〜〜 ちゃ〜〜 ちゃ〜〜 ちゃ〜〜

ちっぷ 貸〜ちゃ〜〜さん。おこ〜〜ろ〜〜ちゃ〜〜ぐ〜〜ぐ〜〜 笑ハイ ちゃ〜〜ぐ〜〜。ちゃ〜〜
よろ〜〜〜〜。ちゃ〜〜ぐ〜〜。ちゃ〜〜ぐ〜〜ちゃ〜〜ぐ〜〜ちゃ〜〜ぐ〜〜ちゃ〜〜ぐ〜〜ちゃ〜〜ぐ〜〜
も 止りまっ〜〜 左ニ ハ〜〜ぐ〜〜ぐ〜〜 ちゃ〜〜ぐ〜〜 ちゃ〜〜ぐ〜〜 ちゃ〜〜ぐ〜〜
ちゃ〜〜。ちゃ〜〜ぐ〜〜ちゃ〜〜ぐ〜〜ちゃ〜〜ぐ〜〜ちゃ〜〜ぐ〜〜ちゃ〜〜ぐ〜〜

まつのやうにとうちゃくすると落合まつ〳〵と
乗ゆき手のとそ　ドロンドンドン
こまえ　「コレサ。そうびつ〳〵
とりつく一ト幕毎ようりやまつり。あつりしくおのでるせて
後「ヘイ〳〵　ゑゑ〳〵いづまは
いでしくありまひつさしておどろきもいてませぬが。
ぢーねけのゆきツイハ〳〵〳〵ト　仲仏のあつごうや俗べ来ようくあつくも
けまひ　左　ちあんべ来がよくく来をもて上せう。美へお出
紙とりまそだの〳〵とりをあつま　左三
ト　いさをそく　ちんとをうのそある　一　ハア是ハ敵是ハ
おようぶぶと。あんまりお是根ぶれ　油是をこせく　お蛭を
一ッぷんかとうトきのそ後ぐ来　「イエ〳〵。ぞうぞ蛭ハ油経
さ　是ありまそくぐさのまし。わとく〳〵で私泥いてまた匂
福与一ぶ来の後ぶ。蛭ぶそろ人ちて赤瀬ませぶハ中あ
向まぶ節ぶ。ねけさ今でぶとひきませぬやうよ和御まし
しぐ。最今のるゆゆ来。幸見そ来ちとまそろ来ちとまそろ
ねとをそろぐ来とこ来ゆいのの内ようはまそ
はあきおしくもりハぞ又あのそろもろくだん　備幸義まを来ちん。大序

始りて。まより段々と迫くて。迫くて。よ松風のよりく。ふ陰見とる
出る。源氏物語の中の大屋敷を構付。小屋を構えて。
常泰へ出る。チヨボ語りハ床へ上り。左二番ハ梅の木紙
持。うハ手屋敷。ときどき。楽屋より。初世の市蔵へ。すぐく
ふくぐと出る。弥る三人ハ雛ゑ。出る。出見仕ハ勘平の拵。
いろめ形ちく。松蔭よ。ひくぐいる。吾七ハ弥五郎の拵へ
ちく向へ。まくる。楽屋ハ其幕毎よ。連中ハ。ひりく
他人を。他人をすちく。もきぐ。ひ。ちくハ。ひ屋敷ぐ。ひりハ

よう。拍子上。ハバチヨン〳〵〳〵ト幕。ひく。ひちく
〳〵。ハ。ちくも。ハ。ひ。ひ。ひ

圓五張承知しまゝ。例のつまみうく曲り和紙遠
しまゝ。面けども〳〵切幕〳〵出ぢ。ぜん〳〵と見る所つき
知ハせきいでハせんと兵のげせ。ぜん〳〵と奥浦へ行よ
浦屋姿だり四名人よりぢひんもせんてきく。がうぜんと
きてるが。そろそろ左りのくさ〳〵く。楽屋うく打つ雨の音ハし
きこと四五張ゑ曲る。一ト目張ぢとりと鳴ぢ間よ繼稽者
しる三流の殺人三四人。結人合屋うく。吞七張見えく。ぢ間とり
きこゝハ人り殺の人と見えて。切刀よ立あがり。物ともいふ

吞七が物のいふ張あてうよ実ハ吞七ゑ四をのけよ二三ゑ
ぢげざさま。次の目の姿居うく。天宮張ゑてうち稽
出ることゑ番ぶ〳〵ハぢ〳〵へうゑ死ち。ぢ〳〵く音絶して
西稽者。残りの殺人ハ見「ミイツく〳〵」トいふの。嵐
近くと見えて三張の見ぢ。先よ実ゑ一ゑる殺人岩永
左門ゑ多ぢ。吞七張押〳〵。ゑる人別ゑ引摺り四く
外殺人もあつまり「ヤイ」のまゝ何やゝ門ゑ見ぢ。
尾張の振義四者しきち張ち出ゑ。ぢ〳〵の稽

鯉中亭

コリヤ今晩のあんばいでこそ無じく。盗賊よ御遠慮いふ届
あやまり上懐中より早縄を出し　ちぢりあげ。ふをとうく
下段人を呼び　奇　吟味　進くいて居。まげおしけの幸む
きぞ物ちづよ長門　丸めぐさねやうよ。大切よ番紙　長門
ちやの　下段　へイ〳〵　かーこまりまし。サアうね立ろく
ト　ひつそ　うる　呑　どんち　ひらのせんにもあまりよ男びげ　おき
笑　紙　弾よ　物　ぬ　つよく　ほろ　ぎ　そのうく　家居　くあうる　ぬ
あくこうあけるあぞ。ひきぐ　生きまつぞ。ぬ　ぬがうせんと　ぬ　ぞ

ひき
うずるまでうつとりとしく　刺もいぞ。殺人のうちよりが
しやうぎする人　秩父　ちぶ　岩永　ぞの。チトおひく
あさまぬ　ぬ　ぬ　見分　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
論の　殺　ぬ　化粧　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　第一
今晩の　殺者　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

その尾をつかく。ヘイ殺者じやとかーあるコリヤヤイ此方ども
いつぶ在勤ものぐ芝居るゆあど不埒身じやとそ。おの色
ぐやう方「人さそも面の殺者ぐあそうと思ひりやうう。
すいつあうも去まくみる。イヤ殺又後こまス今晩の
お稽古よ付き。ありこむや門ゆ名ものとまぐらハーう出
立ちつくそぐざる。ア門ムいやや門。コリヤかやうな不埒をあ
と。上屋敷よりつまく〜諸金ある人明見を変ゆ
味いつそトいつ三人「岩永さるく〜。この

者人吳人ゆ兼意。まりぬまるさそ。延引いつ〜諸の
外芝居人一同迷惑仕りまぬ極みまく。諸方お尋ゆ
ありまぬ。何ら不調法の陪を遁くの出河江吳今吳
かり お舞意の身若お遁いつ〜きまス上の出不無の
親もいぐ。まづく拙者ども〜あぐくあづけちまを
トいつまよびけまぐ。主殺人も先刻より。吾七がそぶり相
遠もあるまぐくと気つけど。おまり身ひどく気極〜
思ス。すぐまも思る〜まる。いつせんとさあまひ〜おまぐ。

山ごぼをさうぶ人と「ブン」あるべく貴公達へまうせ中上げ
ひとの仮名をあうよ世話ちく〳〵。そのいてをいてをねやうよ乞付け
さう〳〵やいト見をあるよ縄をやる〳〵。辛殺人ふ高く更へ
搭る。又若もの殺人をすべく狂言あどよかる紙樂人
あどころ。何のあてこ〳〵ミて。樂屋のぞきをあぶる人物
まくあるものん。まうり呑十歳いろく〳〵うのうう〳〵。辛殺
人殺さう〳〵あどこ〳〵て高ぐ〳〵と義ときいつ〳〵家あうう
きこうが知ねとく。仲ケ間の元が弾の和人紀の狂ゑ〳〵

まづちろともうやく出さろ〳〵やい。ろく〳〵トせり高〳〵色呑
六へで元のが世。義のあうこく何の男衆も高く。若侍の云
ままうせ。幕狂さこせる。備又幕義こく〳〵。チヨボ語りもい
ろく〳〵知てあの浄りをやよきはいろと何と
やこ〳〵く多滑稽の事。チ、チンチン〳〵高ぐ浪出こく
ノあくも。すこ〳〵も知ぞ。出員分も何こぐ〳〵ね男人付あど
いろく〳〵仕こ〳〵せんくさうきこく高こそ「浄り」さぐ〳〵と勢手八
我家をさ〳〵で浄りあくト出りうぐのをうこまぐ出員助も是

きこえたと。何ものまでも〳〵ぐつ〳〵。花屋〳〵そのもの〳〵。屋うそ
〳〵又もふりる雨の音。人の音まるとぐり〳〵と。屋内閑寂なま
ようの雨どうまきのやうにつく〳〵。樹もすぐ葉の伝ひこぼるゝ。ト清
ろう。狐狸の鳴こゑ。こけの一ッ伝ひつく〳〵。ぐつ〳〵。ぐつ〳〵。
よりき。紙の切幕より出ぶん〳〵。家意のうつ〳〵。あめむ。庶
ぶつ〳〵も〳〵ト筋乃のうしろ。ト出ぶ。又定九郎
いぶ。又も一回よ。きれも。左二郎ひやう〳〵。まそ向の
とまつのきあぶ〳〵くわせるとうく。切幕の音チヤリ〳〵と

ぬく〳〵。ぬうまー。や宮水郎。と出の。呑七。若侍ふせ
きこ〳〵。のそうと出る。形を見まえ。拍子も笠もあく。
浮世芭蕉ぶ〳〵の。蔦ふるもあ〳〵ぶ。ぶうぜんと出る。家
意ようこ。あく〳〵見物ケ。ぶつ〳〵〳〵。後見雛ふも一回
きこ。我わせう。家意よりる。出ぶ。あこのぶきとう〳〵
ゆるも。ふり又。ふく〳〵。こ〳〵。楽屋〳〵。きとゆく。も
ふり。呑七。ふう〳〵のぶく。泥ふ。碎ふる。紺のぶ〳〵。先刻より
のふまま。ふまも。ふる。後目の事。ぬ。出。翠。蘭の

門外諸商中の見物の節向の方。ろくろくもせぬ石
組氏まぐく一同こまりくる。御前も見ぐるぐるこまり。
ものもぐ〜物言もせぬ。吞七八あり〜えのがせ先を見
まぐ与一三郎が出くるゆる。粒又ハットぐるてん〜。今又
あとゝもものゝまもゝバト。弁の足まのゝんところざ。貸
三郎が成ようさろく〜とあゝすまちびさあぐまろても
通ゝまぐと。拝せりゆるらぐる男ひつき成らゝ。吞七親父どの
ふぶ門そうあ御座。アこまゝみるゆゝトのゝぐ貸三郎八元

ようゝえのゝがせくゝゆるゆる。吞七成宝九年ところえ八りく〜
年寄の取立ゝ。ゝゝもごぐりませぬがゝぐくのゝゝぐも
金紙大切ゆゝのゝごぐりませぬト笑えゝる通り。さろく〜と
せりふとゝのゆる。吞七すぐゆもゝ迎ゝる。伺ゝまぐ〜〜て
ゆる。拍又服七八紙三郎と一ッ知よ宝ゆゝ切幕〜ゆりゆゝう
〜が吞七ぶ彩方ゆゝ。ゝぐ〜ゝく間のゆゝ〜ゝるゝち。吞
七成年ゆゝ。ゝちゝちとゝゝまゝゝる八不年座の年簡成
足付ケ無宝成ゝ〜〜く出ん。ゝうけ幸成ぐ〜〜。

年〳〵屋へ花ゞ。大山祇様ゝ井の端へ毒〳〵傘或は
らき毒〳〵ゝ踊るべと約上ケ天窓より三ツ盃ゝ〳〵と
あびるうちゝ。詠み手勤平の出合も多く。勤平八間ゝの
ゝ引延し〳〵ゝ。絵より五二ゝ糸の出あく〳〵ゝ
着毒のゝ〳〵〳〵一トすじ五のゝ〳〵ゝより上ゝ出ゝ
まどろきハツトゝ〳〵井戸端ゝ〳〵〳〵イ〳〵〳〵トゝ
ゝ〳〵。傘或ゝ〳〵ゝ〳〵ゝけのまく毒ゝ多く産業〳〵
ゝび上ゝ幕或ゝ毒〳〵イ〳〵〳〵親父ゝト出るゝ

貸ゝ糸八宝九郎ゝ〳〵〳〵出ゝ〳〵〳〵ゝけゝ〳〵〳〵
ゝ。樂屋のゝ八〳〵ゝ〳〵ゝ。吾七をひつ〳〵〳〵有業ゝ
下ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ。ゝ〳〵ゝ二ツ町〳〵〳〵トンチキ〳〵
ゝ。ゝ八宝九郎ゝ五一ゝ糸ゝ人ゝ〳〵〳〵〳〵〳〵
ゝ〳〵ゝ〳〵〳〵〳〵ゝ。貸ゝ糸八ゝ〳〵〳〵〳〵。仕
ゝ八ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ。ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ
ゝけゝ。ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ
ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ

ものがたり親父め。サアくるく今来出さねとぬかしやアコレニ
しやくちん尺八すト獲戒アんまだ。そのぜん家ぶ名戒あびる河井筒のふちへ
ぶきう大小戒垂。そのまくうろ文出くしゆ黒大ゆく今さう丸
ごてよ心づき。バット異どせんくまく。うしろ付けを打く
みる幸八おい変るく座の井筒ホ大小がみるうろ。おくあく
きすくトいのもち一ちゆ出くうゆ戒らひあぶう。チラくと
いのゆ黒父とまだ。エ。エ何どと。エ。エト一向ようりかある。服
ちふあまエこあどせんくまく。「ヤイ親父め。ゆ戒尺ゆすの

傘。仕遠るやアさ更くるくゆあとぬかしやアゆ戒傘ぐ
くきくろ。ほぶゆあらゆ返るアドドさうどト。こエよりり
服ちふ。「出ぶ。仕打ゆ仕沿ゆあまだ。アちぎさよ笑え
貸ちゆ八服知せだ。小ぶ。「モシゆまぶちびびまだ。
服て。「エ。ゆうくくるくるくがれ。くう早くみんで仕出
あせ大変エ。あぶとの親父め。ぶまるくくてぶエト傘ぐ
高りよぶち。ぶぐう。小ぶ。ちゆくどアとひあせよ。「ゆまぶゆ
傘ぐ。ぶ。ぶよません。ぶエ刀をあぜぐ。ぶきくねき服七ま

ちきよおまとこ。服エそのワガ逆ぐらのてどこ。のんまり
きまがきろ。ちんぐもいくろ。ダアとこをき。ちく。エて
ぶきようあトえづこよ。質ちべ紙ちくろうてぶ。俗アイ
タ〜〜〜。コレ。ちぜそのやうちひどこて。我まるのぐ。こんな
そろちぐく。ろ遠へくちのく。おまるてぶ。のるものうト
うくき。傘へ。ほろこく。服ちんぐてあタ。ろ。ちくこんと。傘紙
服ちう。合ちぐろうしろく。ちき。服へ。ライちく。ひっころちく
ちまろ。へうトちぶ。焼。耐ちう。紙つうくみる。率。ハちろろ。紙。

質ちべ。ちう。ふきうえの。案山
ろ紙。ぜ。質ちべ。ちまろ。ちくろ。後ちこ。災。コレ。率
ちより。ちく紙。ちぜよろく。かりく。ちぐちのぐト。率。ハに
かろ紙。左。ちぶ。アバちぶ。壁。拭。ちどろ。押へ。ちちる
しくちうくけ。幕。ちく。かくし。ろ。ちく。連。ゆく。
ちまろく。浄へ。ちく。ちく。ちく。ちく。ちく。ちく。ちく。
紙布。ちぐ。ちの。ちぶ。ちこ。ちる。仕。ちる。ちうとちぐん。ち
出。対。面。ちぐ。ちぐ。ちけ。ちのいト。ちぶ。より。服。ちぶ。ひとり。ちく。ちる。ちる。を

おもて
おんなに唐茄子を売り。化さまの仕うち。十分よやる
浄瑠璃
上裏へ
なれば我身かるとも。あるべき。うらしろより。
ぬきんでる。貧猪テンテレックツテンく〳〵トを
敬まつる。武六ハ縫ゞこの狐ゝく。ヒヨイと出彼かし
ゝうり。約束の通り。猪の思ハ。うしろハ化物めきたる
鳴物ゝく。宝九郎とのうしろの立ぬりハ
かゝり見物も。ゑゝるゆうもの。女人もゞ門と寄まま
ゝり。阪武六ハ。ゝ花をもまぶ。うしろぐ

ゝ
ゝの焼附火へ。実ハ。ゝ。ゝ。ゝ

拍子木。チョン〳〵〳〵ト幕引

相方ゑぞ吉くどりけまど。大序より十一段の内あ段

同様おつゝき幕八方〳〵と。殊の外出来よう〳〵出機

嫌よろしく。出賞美あつく。出酒をどかさまあやつま

ちの言名ゝく。今まも首尾よく帰宅まる

八笑人四編 追加下之巻終

揚太真遺傳

處女香

精製桐の箱入

一廻り 百二十文

そもく雅俗の業の方ゝ男女不沼くに新の艶とうるはしく

しゝて生まれ寿りても安業がくに孤国細ふる地紙あり忘れ

ぐゝし新の業世間ふ寄りく白粉洗粉化粧水多油業ゑど成製しゝて

なることぐく新の業にするおもしろと地紙書ふ先ゝ生まとあ其の書付の

生分も地紙に絵ゝくけ出版嘉と出版ゝ出ゝ出ゝ書付

ゝゝ人べきのゝんがこ是八ゝりくゝ夫和ふ嘉来ゝる業ゝゝゝれゝく長一段

用しゝゝ人ても忽ちふ地紙の形まる地業ゝ一廻り用しゝゝ人ゝ出新の

色白艶と稱のごとくなり二月用ひるべし何程ふ荒癌の机用も
明二重結のことなれども清うとうるのこゝろ〳〵。
の紙。ちゝの新おしも添ずくに清てうるゝくうるゝと結合。
洗ひこの白粉者紙もう迚ものびも白粉と付る程なるもなく
自然素肌の白くうるゝし程なれい程方いら素不及筆迚法方が
用ひるとも因に色ばしも笑くなる製法ゆ色法新ひるく法用ひ程され
真の美人となり申べし〳〵

為永春水精剤

髮の艶を知り髮潤をさる 妙薬 初みぐさ

書物兼繪入讀本所 江戸京橋弥左衛門町東側中程 文永堂 大嶋屋傳右衛門

代三十六文

江戸 文客 滝亭鯉丈著編

仝 画工 歌川國直戯画

花暦八笑人五編 二冊 草稿出来あり引つゞき彫刻出板いたす

天保五甲午年孟春開販

西村屋與八

大嶋屋傳右衛門

江戸書房